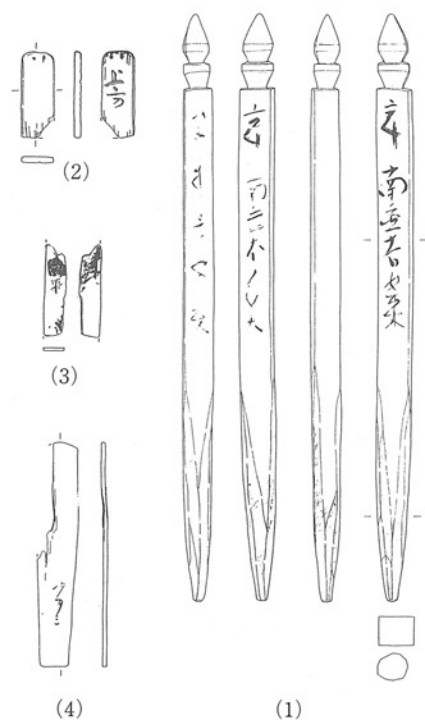
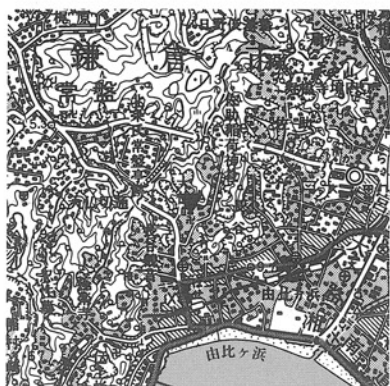




神奈川・高德院周辺遺跡

- 1 所在地 神奈川県鎌倉市長谷四丁目
- 2 調査期間 二〇〇一年度調査 二〇〇一年(平13)五月～九月
- 3 発掘機関 鎌倉市教育委員会
- 4 調査担当者 福田 誠
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀中頃～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

高德院周辺遺跡は、鎌倉の西端、大仏坂の南側に位置し、高德院境内に所在する。現在高德院は大異山高徳院清浄泉寺と号し、鎌倉



(横須賀)

大仏として有名な国宝銅造阿弥陀如来坐像が鎮座する寺院である。

鎌倉大仏に關しては、暦仁元年(一二三八)に僧淨光を勧進聖として大仏堂の造営が始まり、造営開始から約五年後の寛元元年(一二四三)には木造の大仏と

大仏殿が完成したことが知られる(『吾妻鏡』同年八月一七日辛巳条)。また、建長四年(一二五二)には、金銅製で同規模の大仏の鑄造が開始されたことが確認できる(同年六月一六日辛酉条)が、これが木造大仏の造り替えなのか、それともまた別のものであるのかは判然としていない。その後大仏殿は、明応四年(一四九五)に大地震の際に発生した津波によって破壊され(『鎌倉大日記』同年八月一五日条)、その結果現在のような露座の大仏になったものとみられている(田澤坦「鎌倉大仏に関する史料集成稿」(『美術研究』二二七、一九六二年)。

前年度までの調査によって、これまで不詳とされてきた大仏殿の遺構が初めて確認され、礎石を据えるために砂利と凝灰質泥岩を交互につき固めた、根固めなどの遺構が検出された。この砂利は、相模川の河口から東側、茅ヶ崎海岸周辺で採集された可能性が強いことがわかつている(松島義章「鎌倉大仏の礎石地盤を固める版築に使われた砂利採集地」(『鎌倉市教育委員会』「鎌倉大仏周辺発掘調査報告書 平成一三年度」二〇〇二年)。これを受けて、二〇〇一年度調査は、境内に一五カ所のトレンチを設定して実施した。その結果、礎石の根固めのほかに、大仏造立時の痕跡と考えられる斜面堆積が確認された。これらの根固めの位置などから、大仏殿の規模を七間四方桁行一四五尺(約四四m) 梁行一四〇尺(約四二・五m)と推定できるという貴重な成果が得られた。

木簡は、大仏の南東にある高德院駐車場北側に設けたトレンチで

ある一二区において出土した。出土層位は、第三層とされる凝灰質泥岩による地業層の下で、同じ調査区内からは年代が推定できるような遺物が出土していないものの、同様の土層堆積状況を示す九区において、出土したかわらけなどから、一三世紀末頃と推定される層に相当するとみられ、木簡も同時期のものと考えられる。なお、一二区からはほかに、円盤状の曲物の底板と考えられる木製品や、若干の鋤滓が認められる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ×日如来」

(170)×27×3 059

上部は欠損しており、下端もわずかに欠ける。下部は先端に向かって細く尖らせる。樹種はスギ。上部欠損のため推測にとどまるが、「南無大日如来」と書かれた笹塔婆と考えられる。

9 関係文献

鎌倉市教育委員会『鎌倉大仏周辺発掘調査報告書 平成一二年度』(二〇〇一年)

同『鎌倉大仏周辺発掘調査報告書 平成一三年度』(二〇〇二年)

(鈴木絵美)

